

	本年度の重点努力目標	自己評価	成果と課題	学校関係者評価
確かな学力の育成	教師の授業力向上を図っている。	○	<p>○学年単位、または低学年部会や高学年部会ごとで、事前に検討会を行ったり、模擬授業を行ったりして、児童の発表内容や方法等、視点を明らかにしうえて、研究授業を行うことができた。</p> <p>○授業の中で、段階的なペア対話やグループによる話し合い活動を取り入れることで、話す能力や聞く能力の育成に向けた言語活動を意識した授業展開を実施することができた。</p> <p>△基礎学力の定着とともに読解力・思考力の向上を図っていく必要がある。</p>	<p>○愛情のあるコミュニケーション作りが出来ているように思われ、楽しい雰囲気を感じがにじみ出ていて、とても良いと感じている。</p> <p>○先生方が様々な教育法で分かりやすく授業をして下さっているので、学習に対する意欲や基礎学力の定着につながっていると思う。</p> <p>○授業の中でペア対話を取り入れた点も、みんなの前では自分の意見を言えない子もペアで話すことにより、自分の考えや思いを伝えることができ、一人一人の言語能力を伸ばすことにつながっていると思う。</p> <p>△置き勉については、いろいろなメリット、デメリットがあると思うが、登校や下校時に、児童は「ランドセルが重い。」とよく言っています。新年度においては、何らかの方策を見つけてほしいと思う。</p> <p>○授業が分かりやすいという子どもの割合が年々増加しているのは、学力向上のために、先生方が努めて下さっている成果だと思う。楽しく分かりやすい授業で子どもたちの学習意欲も向上すると思う。</p> <p>○授業参観で感じたことだが、以前に比べると子どもたちの発言も多くなってきており、ただ授業を受けているだけでなく、授業にしっかり参加しているという雰囲気がずいぶん感じられ良いと思う。</p> <p>△学校運営協議会時の授業参観や学校公開を見させてもらい、どの子も落ち着いて授業を受けているように思った。しかし、分からない子は分からないままになってしまっているので、支援員を増やす等、もっと支援を充実させてほしい。</p> <p>△宿題を増やすようにとの意見がいくつか見受けられたが、特に高学年は習い事などで、親も子どもも多忙な家庭が多い。家庭学習のあり方をすべて学校の宿題に委ねられると、多忙な家庭はストレスを抱えることになると思う。</p> <p>△医学の発達によって、ADHDと判断される、あるいは疑われる子が多くなってきているように思う。そんな中、先生方の子どもや親御さんへの対応も大変だと思う。問題点や対応方法を今後も全職員で情報交換し、共有していただけてることが大切だと思う。</p>
	小中連携の「授業作法の5か条」をもとに学習マナー、ルールの徹底・定着を図っている。	◎	<p>○千秋中学校区の4校で連携し、5か条にまとめられた項目について継続して取り組んでいることは有効であった。</p> <p>○毎月、カードを使って、各項目ごとに振り返りをさせることで、意識の継続を図り、確かな定着に向けて取り組むことができた。</p> <p>△授業中の聞く姿勢ができていない児童に対する支援について、今後、検討していく必要がある。</p>	
	ドリルなどを通して、計算力や漢字力の向上を図る。	○	<p>○毎学期末の「学力アップ3DAYS」の取り組みは、全校体制で進めることができ有効であった。</p> <p>○家庭学習を習慣づけることにも繋がっていった。</p> <p>△今後も個々の児童の苦手分野を明確にした反復練習を通して、計算力や漢字力の向上を図っていく必要がある。</p>	
	個に応じたきめ細やかな指導や支援に努めている。	○	<p>○丸付け法により一人一人の学習状況を把握し、復唱法で自己肯定感を高めることで、授業における児童の意欲付けをすることができた。</p> <p>○複数の先生で教科指導に当たることにより、児童一人一人への学習支援を充実させることができた。</p> <p>△子ども意識調査において、「授業がよく分かる」「だいたい分かる」の割合が、87.8%である。</p>	
豊かな心の育成	心に響く道徳教育を進め、道徳的な実践力の育成を図っている。	○	<p>○12月の人権週間では、全校体制で取り組むことができた。子どもたちにいじめ問題について考えさせるよい機会となった。</p> <p>○帰りの会において一日を振り返り、友達のよいところを発表させたことや、学校ウェブページで児童の日常的な活躍や頑張り等を掲載したことが、児童の自己肯定感を高めるのに有効であった。</p> <p>△道徳の教科化に伴い、これまで以上に考えさせる道徳や行事との関連を重視した道徳の授業に取り組んでいく必要がある。</p>	<p>○帰りの会で、友達の良い所を発表させた点は、自分では気づいていない所を友達が褒めてくれることにより、自己肯定感が生まれ、自分を大切にできる良い取り組みだと思う。また、友達の良さを見つかることで、友達に対しても親切にしたいという気持ちになり、いじめがおこらない良い環境ができていくと思う。</p> <p>○ボランティアによる読み聞かせは、普段あまり本を読んでいない子にも興味を持つきっかけとなっていると思う。今年は各学期に読書週間を取り入れたことで、本に親しむ子が増えたのではないかなと思う。</p> <p>○縦割りの清掃などは、異学年の子どもたちとの触れ合いの中で、下級生に対するやさしさや思いやりなどを学ぶことができるし、これから大人になり生きていくための社会性や協調性を育てることができると思う。</p> <p>○日常の挨拶、朝は特に登校中の子どもは、社会人の方、中高生とのわたしたちの挨拶のやり取りを見る機会がある。皆さんが挨拶をしてくれるので、そのようなやり取りを見て、声に出ない子でも何かを感じてくれていると思う。</p> <p>○読み聞かせは、とても熱心に聞いてくれて私たちボランティアの継続の力になっている。少しずつ心の糧、思い出となってくれていけばよい。私達に読んでもらいたい本があれば教えてほしい。</p> <p>△最近、スマホの小中学校への持ち込みについて、文科省が動き始めているが、要・不要は災害時という一つの切り口だけでなく、多様な面から、慎重に検討してほしい。</p> <p>△旗当番で立つ際に挨拶がきちんとできる子が少ないと感じた。地域の方からも子どもたちの元気がないとの声も聞いている。日常的に挨拶をできるようにするためには、家庭での取り組みも大事だと思う。</p> <p>△小規模小学校であるからこそ、縦のつながりが強くなっていると思う。年長者を見習い、年少者に優しく接することを覚えるこの時期をもっと大切にしたい。</p> <p>△毎回、子どもの意識調査を見て感じてきたことだが、「自分に自信がある。自分に良いところがある」というポイントが低い。子どもと触れ合える(見守り隊やボランティアなど)中で、折にふれ気づいた良いことがあったら、その場で褒めてあげる。自己肯定感を高めてあげられる一助になればと思う。それが人への親切や学校が好きにもつながると思う。学校生活の中での先生方の取り組みの継続をお願いしたい。</p>
	ペア活動・異学年交流や地域の人々とのふれあい・体験活動を通して、思いやりや感謝の心を養っている。	◎	<p>○清掃活動や児童会活動などの異学年交流において、高学年が低学年の世話をすることができた。特に児童会主催の「ふれあいフェスティバル」では、高学年が低学年に優しく温かみのある接し方をすることができた。</p> <p>○地域の方との交流会ではどの学年も楽しく活動でき、地域に支えられているという実感を感じながら、有意義な時間を過ごすことができた。児童の感謝を伝える手紙には、お年寄りの方々感動していた。</p> <p>△通学班等において、トラブルになるケースがあるので、機会をとらえて相手の立場や考えを尊重していく指導を、今後も継続して行っていく。</p>	
	小中連携のあいさつ運動を核にして、あいさつの定着に努めている。	○	<p>○あいさつ運動の期間中においては、高学年を中心に、多くの児童が積極的に校門に立ち、元気よく挨拶ができたことは評価できる。</p> <p>△日常的なあいさつはまだまだ不十分な状態である。見守り隊等、地域の方にも自分から進んであいさつができる児童を一人でも増やしていきたい。今後も、まずは大人から積極的にあいさつの声をかけていきたい。</p>	
	朝読書、読書週間、読み聞かせ等の活動を充実させ、読書への意欲化を図っている。	○	<p>○保護者や地域の方々、職員による読み聞かせをクラスごとに実施することができた。毎月児童は楽しみにしており、静かに集中して興味深く聞くことで、本の世界に入り込んでいる。</p> <p>△読み聞かせやブックトークなどを通して体験した本の楽しさを自らの読書につなげ、親しんでいく児童を一人でも多く増やしていきたい。</p>	

	本年度の重点努力目標	自己評価	成果と課題	学校関係者評価
健康や体力の増進	家庭と連携して規則正しい生活習慣を身につけさせている。	○	○2・3・5年生を対象に、給食の時間に栄養教諭を招き、バランスの良い栄養摂取の指導を行ったことは、大変有効であった。 ○千秋中学校区の4校で取り組んでいる、長期休業中の「親子ふれあいデー」調査では、家族のコミュニケーションの大切さを意識づけるきっかけとすることができた。 △睡眠時間の十分な確保やスマホを中心とした情報モラルの啓発活動を今後も継続していく必要がある。	○長期休業中の「親子ふれあいデー」は、家族で有意義な時間を過ごす良い取り組みだと思う。 ○冬季にジャンプアップマラソンを取り入れていることは、健康の為に良い事だと思う。個々に合わせた目標を決めることで、苦手な子も無理なく走ることができ、楽しく健康増進が図れていると思う。 ○ジャンプアップマラソンは、寒い中、外へ出て走らなければいけないので、面倒だとか苦手だと言っている子も多いようだが、体力向上につながると思うので、短期間でも行った方が良いと思う。 ○安全な生活面での下校後の交通ルール等、ボード類の遊びも多く見かけようになっている。見かけたときは地域の者として注意し報告したいと思う。 △学校、家庭でのマナー及び社会性がかなり強く指導されているとは思いますが、児童個々に差も見られるので、ますますのご指導をお願いしたい。 △朝食の大切さの啓発は、児童と保護者の両方に必要だと思う。 △過日、NHKにて、児童の近視になる要因について、ドキュメント放映があった。結論として、屋外において日光に当たるのが、近視予防につながるのと最近の学説を紹介していた。天気の良い日は屋外での活動を推進していただきたい。 △睡眠時間の十分な確保やバランスの良い栄養摂取、自転車の乗り方、歯磨きなどは、保護者の意識を変えないと変わっていかないと。今後とも、学校と家庭とが連携して取り組んでいく必要がある。 △ヘルメットをかぶらずに自転車に乗っている子や、横並びで危ない乗り方をしている子を目にするので、ヘルメット着用の必要性や交通ルールを学校、家庭の両方で子どもに伝えなければいけないと思う。 △睡眠時間の大切さ、食育は今後も子どもたちに指導継続をお願いしたい。
	安全な生活を送れるようルールの理解や安全意識を高めている。	○	○学校のきまりや学級の約束事を守っているかという子ども意識調査では、昨年度の後期と比較すると1.3ポイントほど高くなった。 △正しい廊下歩行についての運動期間中は、児童の意識が高まったが、今後も継続して働きかけや日常的な指導を行っていく必要がある。 △下校後の自転車の乗り方やヘルメットの着用等、交通ルールの遵守についての安全指導を継続して行っていく必要がある。	
	歯磨き指導などを行い、健康についての意識を高めている。	◎	○給食後の歯磨きは全校で取り組んでいるので定着してきている。 ○5月の「親子染め出し指導」は全校児童で行うことができ、保護者の意識も高めることができた。また、長期休業中には歯磨きカレンダーを作成して取り組むことができた。 △今後も、う歯治療率100%を目指していく。	
	持久走やなわとび運動など楽しく健康の増進を図っている。	◎	○冬季に、体力の向上と健康の保持増進を目指し、ジャンプアップマラソンを取り入れた。中間放課を利用した取り組みではあるが、全校体制のもと、児童は個々に目標を立てて意欲的に走っている。 △部活動との兼ね合いを検討していく必要がある。	
未来に生きる力の育成	発達段階に応じた「キャリア教育」を推進する。	◎	○地域を含めた様々な施設や工場を見学することにより、働く人々の気持ちや考えを知ることができた。 ○全校でのさつまいも栽培やいちごの収穫体験では、児童が意欲的に取り組み、農作物を収穫する喜びを感じることができた。 △見学や訪問可能な事業所が限られてきているので、新しい施設を開拓していくことが必要である。	○教科書の中だけでなく、実際に工場の施設に行き、見ることでどういった現場なのか、働いている人々の考えはどうなのかなどを知り、実際に目や耳にすることで、より深く考え学ぶことができる良い経験になっていると思う。 ○地域の方の協力のおかげで、サツマイモやイチゴの収穫体験などができ、子ども達は毎年楽しみにしているし、とても良い経験になっていると思う。 ○工場見学やお店の見学など、地域のことが理解できる学習は関心も持てるようだし、地域への愛着も感じられ、とても良いことだと思う。 ○毎年、限られた地域内での工場、施設見学等ご苦労様。サツマイモ、イチゴ、稲作の体験も継続できるよう願っている。 △労働の尊さを学ぶことはとても大切で、成長への段階につなげたら、進歩していくのではないかと存ずる。工場や施設など、もっと多くの事業所に協力していただくよう望まれる。 △「家の人と将来について話し合う」というアンケートの質問において、「よくある」「時々ある」の合計が約60%の比率となっており、何となく家庭におけるコミュニケーション不足が感じられる。 △「ALTの先生と英語であいさつや会話ができる」の質問に対して、ポイントの上昇はあるものの、60%台と高値ではない。
	外国語活動や情報・地域・環境・福祉などのテーマを総合的な学習の時間等で学び合う中で、自ら学ぼうとする意欲を高め、主体的な学習態度を育成する。	○	○ALTの指導のもと、楽しく英語活動に取り組むことができた。 低学年でも、学期に数時間実施することができた。 ○学習発表会では、4・5・6年生が総合的な学習の時間での取り組みを発表することができた。 △外国語活動や総合的な学習の時間の効率的で効果的な持ち方を考える必要がある。	
信頼される学校づくり	積極的に学校支援ボランティアを活用するとともに、「子ども110番の家」や「見守り隊」など地域とのネットワークの強化に努める。	○	○4月に「見守り隊結成式」を行ったことで、協力者の方々の意思統一を図ることができた。（合言葉は「できる時に、できる場所で、できることを」） ○2月に見守り隊情報交換会を行い、意見交換を行った。問題点を地域の方々から教えていただくことができた。 △見守り隊活動やボランティア活動への参加の依頼を継続していく必要がある。	○ウェブページの公開は、学校や子どもたちの様子を知ることができる、学校と家庭とのつながりの一つになっていると思う。 ○児童数が少ないこともあり、学校全体（先生方全員）で見守って下さっているように感じる。地域の方々との行事（教育活動）も多いので、これからもこの一体感を大事にしていければと思う。 ○ウェブページで毎日写真付きでこまめに更新されているので、学校での活動や様子が分かり、保護者は安心感が考えられる。 ○見守り隊の存在は、PTAの旗当番や先生方の朝の門でのお迎えには、比べものにならないくらい助かっていると思う。今後、見守り隊の方々のモチベーションを上げるためにも、感謝の気持ちを伝える機会をもっと増やしてもよいと思う。
	学校公開日、学校行事等の案内、学校ウェブサイト、学年通信等を通して保護者や地域に積極的に情報発信する。	◎	○公開日では、終日公開していることが有効である。 ○学校ウェブサイトでは、ほぼ毎日更新しているので、学校や子どもたちの様子をタイムリーに発信することができた。 ○学年通信では、行事の際の子どもたちの感想を掲載していることが有効であった。 △保護者や地域の意見をできる限り取り入れ、学校・保護者・地域がより連携をして教育活動を行っていく必要がある。	○見守り隊結成式・情報交換会は大変有意義である。新学期に向けて、先生方の班分け等ご苦労が多いと思うが、結成式の時に各通学団の数、グループの人数を隊員の方々に連絡してはどうかと思う。 ○ウェブページは大変充実していて更新も早く、保護者の方々からの感謝の声も素晴らしい。保護者の声にあるように、先生方の負担にならないよう、今後も発信よろしくをお願いしたい。 △見守り隊も高齢者が多く、子ども会、女性部等への参加を検討する必要があると同時に、保護者の責任感があり見えてこない。協力的、非協力的な保護者が二分されているように思われる。また、保護者同士のコミュニケーションも今はラインばかりで、人と人としてのつながりが希薄になっているのが感じられる。 △見守り隊への参加依頼は、漠然と参加を呼びかけるのではなく、個別でお願いするのをも一考かと思われる。